

懐かし養蚕 医療に一役

主婦 松島 幸江 70

(東京都江戸川区)

絹糸を生み出す蚕が医療の分野で活躍しているという記事（5月15日）を読み、懐かしい思い出がよみがえりました。

故郷は福島県の農村で、小中学生の頃の夏休みには祖母の養蚕を手伝いました。桑の葉を与え、フンの始末をしながら、なぜ蚕のまゆから絹織物ができるのか、子ども心に不思議に思ったものでした。

高校卒業後に就職したのも製糸会社でしたので、蚕とはなじみの深い生活でした。その蚕が、遺伝子組み換え技術によって骨粗しょう症の診断薬になる成分を作っていたり、糸の成分を使って心臓や皮膚を再生する研究が進められたりしているとのこと。

故郷の村では養蚕農家はなくなりました。ただ、未来の医療に役立つならば、また養蚕農家が増えればいいなとも思います。